

# 新国立に県産建材を

## スギや大谷石など 知事ら国に要望

2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場などの建築資材にスギやヒノキなどの県産木材や宇都宮市の大谷石、那須町の芦野石を使っ

てもらおうと、福田知事と佐藤栄一市長、高久勝町長が18日、文部科学省を訪れ、馳文科相に要望書を提出した。

近年の五輪施設は、国際

機関などから認証を受けた森林から生産された木材を使用することが原則となっており、東京五輪でも同様の方針だ。

県林業振興課によると、県内で認証を受けた森林は約3300㌦で、関東では群馬県(約2万㌦)に次ぎ、今後も木材の品質の良さや都内への運搬の便利さをアピールする。県森林組合連

合会の枝任郎参事は「県産材の需要の起爆剤になれば」と期待している。

また、旧国立競技場には大谷石が使用されていたほか、県内には新国立競技場を設計した建築家・隈研吾氏が設計し、芦野石を使った「那須歴史探訪館」や「那須芦野・石の美術館」がある。

県工業振興課の茂呂和巳

課長は「大谷石と芦野石の両方を目につく場所ですべてもらえれば、需要は高まる」と話している。

栃木